

国語解答

1	(1)		さ	る	1
	(5)	等	しい		5
	(2)		みなと		2
	(6)	指先			6
	(3)		ちゅうしょく		3
	(7)	医者			7
	(4)		りよかん		4
	(8)	集計			8

2点×8＝16点

2	(1)	①	が	②	で	9
	(3)	①	で	②	を	11
(2)		①	と	②	を	10

(1)・(3)各完答

4点×3＝12点

3	(1)	ウ	↓	ア	↓	イ	12
	(3)	ウ	↓	イ	↓	ア	14
	(2)	ア	↓	ウ	↓	イ	13
	(4)	イ	↓	ア	↓	ウ	15

(1)・(4)各完答

3点×4＝12点

4	(1)	イ	16											
	(2)	② ウ	17											
	(3)	イ	20											
	(4)	① イ	チ	ゴ	が	雪	に	う	も	れ	る	こと	21	
	(2)		(なんきもの半田形のフレーム・(ロールにビニールシート・白いビニールシート) 22											
	(5)	し	ん	ば	い	し	て	い	る	23	(5) 書きなご			
	(6)	エ	24											

(4)①書きぬき

(4)②書きぬき。順不同・完答

4点×9＝36点

5	(1)	ウ	25										
	(2)	ア	26										
	(3)	イ	27										
	(4)	①	一八九六 年	28									
	(2)(例)		地	球	の	五	つ	の	大	陸	が	な	29
	(5)	イ	30										
	②		か	よ	く	す	る			こ	と	。	29

(4)①書きぬき

(4)②(別例)「五つの大陸の人がなかよくすること。」
(別例)「地球上の五大陸の人がなかよしになること。」
・「五つの大陸・五大陸」にあたることばがないものは0点。「五つの陸」
「大陸」としてあるものは－2点。
・「なかよくする・なかよしになる」にあたる内容がないものは0点。
・「地球」「みんな・人」の有無は問わない。

4点×6＝24点

かい せつ
解 説

1 漢字の読み書き

2 「てにをは」による意味のちがい

3 大きなまとまりを表すことば・小さなまとまりを表すことば

(4)「夕立」は、雨のしゅるいの一つで、夏の午後にふる強い雨のことです。

4 物語(竹内もと代「イチゴがいっぱい」より)

(1) さつきは、いちご畑にしゃがみこんでいる将太が「よけいなこと」をしているとかんちがいしています。「ゆるさないからねっ」や、「こぶしをにぎりしめて」などから読みとることができます。

(2)・(5) ㊦「こぶしをほど(く)」は、「こぶしをにぎりしめ(る)」のと反対に、にぎっていたこぶしをひらく動作から、いかりの気持ちがとける様子を表しています。さつきは、将太がイチゴをしばいしてくれていたことを知り、自分のかんちがいではらを立てていたことに気づいたのです。

(6)「はやくつくるぞ。」とは、将太がさつきにどうすることをさそっているのかを読み取るのがヒントになります。雪がつもってしまう前に、イチゴに雪よけを早く作ってあげようと言っているのです。

5 せつ明文(国松俊英「スポーツの名前のなぞ」より)

(1)「その思い」という指ししめすことばがあるときは、「その」の少し前にさかのぼって、「その」の代わりに当てはまることばをさがします。

(2) ※の前の「遺跡の発掘研究をおこなった」のあとに、内ようをそのままつなぐ「遺跡の発掘に成功した」とあるので、※には、前とあとの内ようをそのままつなぐ「そして」が入ります。

(3) 古代ギリシャでもスポーツをさかんにやっていたことが、古代オリンピック遺跡の発掘によってわかりました。そのことでクーベルタンは、青少年のからだと心をきたえるスポーツを競う大会を復活させることを思いついたのです。

(5) ア「クーベルタンとクルチウスは力を合わせて」、ウ「スポーツをやった自分の体験」、エ「クーベルタンは、無気力な生活をしていた」の部分がそれぞれ本文と合わず、まちがいです。